

# 琵琶湖博だより

琵琶湖博物館



## ～創刊にあたって～

琵琶湖博物館は「湖と人間」というテーマをもって、多くの方のご支援ご協力により、開館以来みなさまから愛され、再度来館されてもその都度興味を深めてもらえるように運営に努めてまいりました。

そしてこの度、紙面を通して多くの方との更なる絆を深めるため、琵琶湖とその周辺の「ぐるりのこと」について、みなさまにお伝えする「琵琶湖博だより」を年4回発行することになりました。

このたよりは、地域に密着した調査研究や琵琶湖博物館が目指している「地域だれでも・どこでも博物館」に関する情報などを掲載していく予定です。多くの方の手に届き、長く保存していただける情報誌となるように努力してまいりますので、ご愛読よろしく申し上げます。

## 魚のゆりかご水田

### ～田んぼは生きものの故郷～

昔、大雨の後に「琵琶湖からフナやナマズが田んぼに上り、卵を産みにきた」という話をよく聞きました。その頃の琵琶湖周辺では、魚たちが琵琶湖－水路－田んぼの間を自由に行き来することができ、田んぼはフナ、ナマズ、コイなどの格好の産卵成育の場所でした。しかし、昭和40年代から進められてきたほ場整備により、生産性の向上は図られましたが、田んぼと水路の落差ができ、魚の往来が困難になりました。

そこで魚の遡上を助けるために、排水路と田んぼとの落差を徐々に小さくする工夫をする(写真1)ことによって、田んぼに魚が侵入しやすくなりました。このような取組を「魚のゆりかご水田」といい、平成21年度では琵琶湖周辺の26地域、約111haの田んぼで実施されました。

琵琶湖博物館では学芸員が地域の人達と協働して、水路のモニタリング調査や田んぼの稚魚流下調査を行っています。この調査

結果は地域の人達と情報を共有し、今後の活動に活かしてもらっています。

かつてのように魚が田んぼに入れるようにすることは、除草剤や化学肥料の使用も抑えることになり、多様な生きものを育む水田の環境が保たれ、琵琶湖の生態系を守ることにもなります。当然そこからは安全安心なお米がつくられています。

このように魚にやさしい田んぼでつくられたお米のことを「魚のゆりかご水田米」と呼び、県内外のスーパーや農協の直売所、学校給食などに出荷されています。食べるものを育てることが、くらしといきものを守る取組につながっていくことは素敵なことですね。

資料提供：滋賀県農村振興課

(主任主査 ほざま としゆき 裕 登志之)



図2 魚のゆりかご米



図1 魚のゆりかご水田風景(イメージ)



写真1 堰上げ状況



写真2 ナマズの遡上

# ホタルの学校

～大津南部地域の活動です～

ホタルの学校は、開校して今年で8年目。大津市南部地域にお住まいの、荒井紀子さんが、大津市の千丈川に棲んでいるホタルの保全を、地域の人たちと進めるための活動として始まりました。

千丈川には、ホタル以外にもいろいろな生きものが生活しています。ホタルの学校では、そのことを実感するため「千丈川生きもの観察会」を開催しています。私も子どもたちと一緒に川へ入り、網で水の中の生きものをつかまえます。見つかったものは、仲間ごとに種類分けをします。そして、顕微鏡で観察しながら絵に描きます。描くことで、特徴や形に気づいてくれます。水面の上から見ただけではわからない、生きものの形や命を、五感を通して感じてもらえればと思っています。

ホタルの学校の良いところは、地域の方々が運営されているところです。子どもたちの小学校の先生も様子を見に来てくれます。ホタルの鑑賞会や文化祭には、地域の方や、中学生や高校生になったホタルの学校の卒業生もたくさん集まります。

まだまだ発展していく、ホタルの学校。今後も、地域のみなさんと共に、ホタルの学校を一緒に楽しみたいと思います。

(主任学芸員 ますなが かずひろ 榎永一宏)



写真  
① 千丈川の生きものさがし  
② 水生生物をスケッチ  
③ ホタルの夕べ

第18回企画展示

## 湖底探検

～びわ湖の底はどんな世界?～

**日本財団 助成事業**  
The Nippon Foundation

パートナーシップ事業

**COP10**  
AICHI-NAGOYA

共催：滋賀県水産試験場、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター  
協力：船の科学館・海と船の博物館ネットワーク、浦環(東京大学)、川村貞夫(立命館大学)

【開催期間】 2010年7月17日(土)～11月23日(火・祝)  
【開館時間】 9:30～17:00(入館は16:30まで)  
【観覧料金】 小・中学生 100円(80円)、高・大学生 160円(120円)  
一般 200円(160円) ※ ( )内は20名以上の団体料金 ※常設展示観覧料金とは別料金

「地域だれでも・どこでも博物館」って?

琵琶湖博物館の活動目標の一つに「地域だれでも・どこでも博物館」があります。そのために、生活・生業の場である地域の価値を求めるひとびとの協働を促し、それぞれの地域が博物館と呼べるように応援を広げていきます。主役はみなさん、目指すは「地域だれでも・どこでも博物館」!

**しが 衣食住博**  
in 琵琶博

イベント 2010年12月5日(日)～12日(日)

びわこ大縁日

滋賀県内の80あまりの団体、NPO、企業が集まり、「滋賀の環境とくらし」をテーマに交流イベントを行います。

【会場】 企画展示室・アトリウム他(参加無料)  
【主催】 びわこ大縁日の会【共催】 琵琶湖博物館

ギャラリー展示 2010年12月19日(日)～2011年1月6日(木)

近江のふるさと絵屏風と未来予想絵図  
【会場】 企画展示室(観覧無料)【主催】 琵琶湖博物館 【協力】 びわこ大縁日の会

ギャラリー展示 2011年1月23日(日)～2月16日(水)

温故知新・近江の糸と織り  
【会場】 企画展示室(観覧無料)【主催】 琵琶湖博物館、近江・糸と織りネットワーク

ギャラリー展示 2011年3月1日(火)～4月7日(木)

食事博—未来につなごう近江の食とくらし— 滋賀の食文化研究会20周年記念  
【会場】 企画展示室(観覧無料)【主催】 滋賀の食文化研究会、琵琶湖博物館

「しが衣食住博 in 琵琶博」は、衣食住に関する多様な地域活動を紹介し、交流を深めるイベントの総称です。

鳥の目 魚の目 クイズ

「ホタルについて」

Q ゲンジボタルはいくつ卵を産むでしょうか?

① 5～10個  
② 50～100個  
③ 500～1000個

答えは、紙面のどこかにあります。